

平成 18 年度 第 3 回 芦屋市市民参画・協働推進委員会 会議要旨

日時	平成 18 年 7 月 6 日 (火) 15:30~17:45
場所	芦屋市役所 分庁舎 2 階 第 1 会議室・第 2 会議室
出席者	委員長 今川 晃 副委員長 外園 一人 委員 上野 義治・海士 美雪・加藤 純子・国枝 哲男・ 久保田 靖子・津田 和輝・東川 美枝子・藤野 春樹・ 細谷 豊司・牧野 君代 事務局 鴛海参事・大橋市民参画課長・福島市民参画課主査
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <非公開・部分公開とした場合の理由>
傍聴者数	0 人

議題

- (1) 事務局からの資料説明
- (2) 市民参画・協働に関する行政情報窓口一元化のイメージ
- (3) (仮称) 市民参画センターのイメージ

15:30 開会

【資料説明】

- ・市民参画センターの検討課題とスケジュール
- ・平成 18 年度市民参画・協働推進事業予定

(他の提出資料)

- ・仮称「市民参画センター」のイメージについて(牧野・細谷グループ)
- ・自治基本条例等事例(事務局)

(事務局より、資料「芦屋市市民参画センターの仕組みづくり」「スケジュール」「平成 18 年度市民参画・協働推進事業予定」説明)

【討議】

(委員長)

今の説明について何か質問はないか。特に本日は市民参画センターについての議論が中心となると思うので、今の説明の中でわからなかったことなどあればお願いしたい。

(委員)

官設民営のイメージはどのようなものか。

(事務局)

建物は市が用意し、それに係る水道光熱費等の経費も市が負担するが、その中の運営に関しては、市の職員や市のOBが座ったりは一切しない。民間の皆さんにお任せするというイメージを持っている。

(委員)

市民参画センターでは、具体的には何が行われるのか。

(事務局)

本日委員方にお集まりいただいて徹底討論していただくのは、一体センターで何をして、どのような形にすれば皆さんに使っていただけるかということだ。どうすれば皆さんに集まっていいただいて有効に活用できるか。

ただハコ物があって閑古鳥が鳴くということのないような使いやすいものにしたい。それが委員方の意見で決まってくる。そこで今日は、市民参画センターのイメージということ进行讨论していただく。

(委員)

話がずれるかもしれないが、どのようなセンターを作るのかを考えている。以前、宿題に書いたようなトヨタ、ニッサンなどのショールームのようなイメージならば行くかと思う。カウンター越しで紋切り型はよくないというイメージがある。

震災のあとの区画整理が進められていく過程でいろいろなことを考え行動した。住民の会ができ、反対運動をはじめ、住民の会自体が住民投票をした。区画整理に反対ということからはじまって区画整理ができたが、決していいまちづくり、まちなみができているとは思えない。近畿大学の教授が学生に手伝ってもらって1つのプランができて、これが住民の案という形でできあがったまちだ。

都市計画法による区画整理手法だから、都市計画法でいうところでは道路は6m、建築基準法では4mだ。区画整理の手法では4mの道路では予算が出ないので6mにしろという指導があった。反対する住民は、広い道路はいらぬ、広い公園はいらぬというところだったが、お金を出すために必要ないものが建設されている。折衷案のようなまちづくりだ。

できてしまい、自治会で毎日公園の水撒きをしているし、年数回の掃除もみんなで行っている。できあがったものに関しては参加するが、とっつきが反対からはじまってしまったという部分が残っている。その手法で予算は確かに出たが、仮換地指定をされるまでは2階建てくらいの家は建ててもいいということで5～7年の期間があった。木造の家を建てても、そこが道路になると言われたら費用は国の補助で出すということで建替えたという家が、やはり200軒はあると思う。200軒×2,000万円は何十億というお金がそこで消えてしまっている。もし反対ではなく賛成運動からはじまっていたら、40億というお金が他に使われてもっといい部分に使えたのかもしれない。

少しひっかかっているのが、市民と行政は対等というところ。対等ではなく、住民が反対してしまうとパワーになるが、反対しない限りはこういう水撒きをする従順な人ばかり

だ。そうするとやはり行政は、区画整理が何たるか、また反対にこういう手法があるという説明をする責任がある。わかりやすく説明をしてもらおうとわかる人ばかりだ。

住民投票をもし条例に入れるのならば、市長の権限でできるとか、答えを求めるためにアンケートをとるとか、投票するというのもちゃんと積み重ねていったらこちらがいいというような、住民の会がやったような投票をするべきではない。かと言って、最後の砦として住民投票というのはものすごく意味を持つものだと思う。

センターを作るのであれば一般市民に窓口を任せるというのも1つの方法だが、そこへ行ったら何でもわかる、もし困ったことがあったら行政の立場としてこういう手法がある、こういう予算がたてられているというようなきっちり開かれた窓口が必要だと思う。

サマーカーニバルに関わっており、縁日の設営を担当している。警察にしても芦屋警察と兵庫県警、いろいろな立場からの締め付けがある。役所はタテ割りなので、芦屋警察はこういっているが県警はこういっているというように、横へ広がっていくことが非常に難しい。また海上保安庁が、芦屋の海で花火を上げるに際して、マニュアルを作っているのではないかといいくらい規制が厳しい。それも含めて情報の一元化という部分については、窓口が横へ情報を広げていけるようなセンターになればと思う。

(委員長)

ぜひともそういったことも含めて議論していきたい。議題に「市民参画センターのイメージ」「市民参画・協働に関する行政情報窓口の一元化」というのもあるので、おそらくそういった議論に関わってくるのではないかな。

(委員)

情報が行政のなかでもいろいろな箇所から出ている。1か所ではなく別々にでてくる。そこをつき合わせたらもっといいものができるのではないかなということから、情報の統括が必要だ。

それと同時に、行政に行ってもどこに行ってもわからないこともある。震災のあと、ボランティアをやりたいという人が確かに増えている。何かしたいと思ったときにその情報がない。もともと出ている情報だけがあって、もっと細かいものがほしいと思ったら出ない部分もある。芦屋で活動しているのはこんなところがあるなどの情報が、ここに行けば分かるという場所がほしい。例えばコーラスに入りたいという場合でも、行ってみてどんな内容かを知ることができる。名前だけではわからないし、1度入ってしまえばなかなか止めることはできない。市で持っている情報だけでなく、業者の持っている情報とドッキングした情報があればやりやすい。

(委員長)

2人の委員から大変貴重な意見をいただいた。今の発言について基本的に、情報として持っていることがあれば事務局からお願いしたい。

(事務局)

市のどこか1つの窓口ですべての情報が得られることが一番いいというのはよく分かるが、すべての情報を一元化することは不可能だ。市民参画センターで情報を一元化するのは、やはりその関係の範疇の情報だと思う。例えば自分が市民参画をしたいが、それにつ

いて何か情報がほしいといった、そういう範疇での情報の一元化はできると思う。あまり広げられると、それは無理だ。

(委員長)

それではワークショップ形式についての説明を委員からお願いします。

(委員)

いろいろな意見、思いをお持ちだと思う。皆さんと一緒に市民参画センターについてのイメージをもう少し持ち寄って、また具体的な提案をしていきたいと思う。提案しなければ絶対に実現しないので、どうぞいろいろと発言していただきたい。

グループを3つに分けさせていただく。3つのグループでそれぞれ考えていただくが、まず、どのような場所にしたいか、そこでする事業を何がしたいか、どのような人がいたらいいか。人それぞれいろいろなイメージを持っていると思うので自由に出していただきたい。とにかくたくさん意見を出していただきたいと思う。その3つの視点をそれぞれ時間を区切って議論していただき、最後にそれぞれのグループでまとめて発表していただきたい。

【グループ討議(ワークショップ)】

グループ1：今川委員長(リーダー)、細谷委員、海士委員、津田委員、福島主査

グループ2：外園副委員長(リーダー)、加藤委員、東川委員、藤野委員、大橋課長

グループ3：国枝委員(リーダー)、上野委員、久保田委員、牧野委員、鴛海部長

【討議結果の発表】

グループ1

市民参画センターについて、まず3つに分けて部分的に議論した。どんなセンターならいいのか、どんなハコならばいいのかということと、その中で何が行われたらいいかということ、そのことをするためにどんな人がいればいいかという3段階。

結論から言えば、「どんなことをしたいか」と「どんな人が関わるか」ということは非常に相関関係があって、「こんな人がいるからこんなことができる」、「こんなことをするからこんな人がいる」というので、必ずしも事業と人だけではないということ、ここに関わる人がどういうことなのかということでも変わってくる。

また、市民参画センターと言っても皆さんにはピンと来ないので、どんなところなのかということで皆さんに分かるネーミングがいいということでいろいろ話をしたが、例えば皆が来てここでリラックスできる、誰でも立ち寄れるところで「お茶のみまセンター」とか「何でも言うてみまセンター」とか。

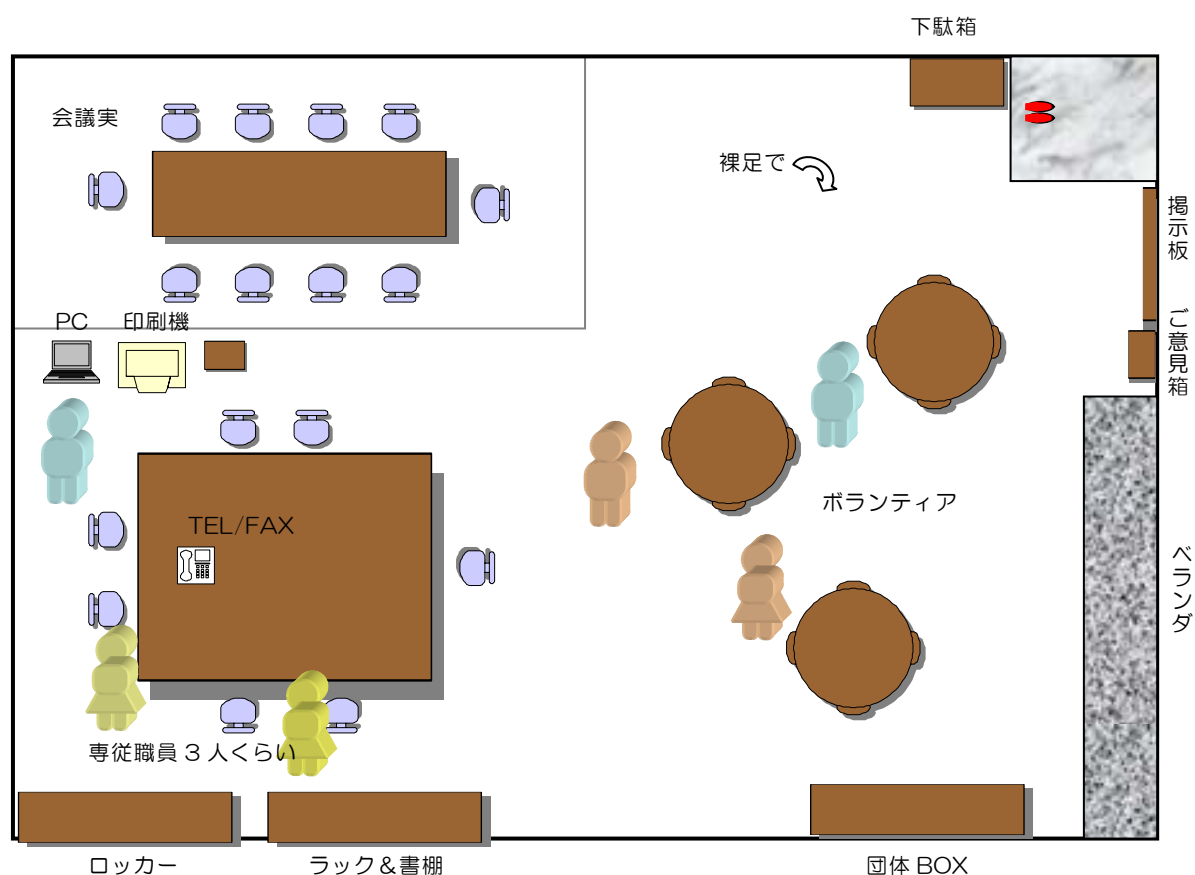
イメージとしては「市民」、小さい子どもから高齢者までここで声を上げていける場所、硬い言葉でいうと提言できる場所。どんな小さなことでもいいので、特に政治的なことでなくても、芦屋の市民としてこんなところをこのように考えているとか、いいも悪いも含めて提言していける場所であればいいなというイメージがまず出た。

NPO活動に関するセンターがまだきちんとないので、NPOを作りたい相談などう

まく答えられていないのではないかと出て、「市民」を付けるか付けないかは別として、NPOに関することの相談ができたらい、情報提供ができたらい。これが一番大きな機能かと思う。例えば団体で何かしたいときの補助金、助成金などはここで直接教えてもらえるかもしれないし、このような団体に行って聞いたらいいといった情報提供をしているところだ。

また、それぞれの地域の団体・組織の人事交流ということができないか。人事交流と言うと少し硬いが、それぞれの団体・組織のメンバーをさらにスキルアップやレベルアップして、センターが人材育成をして、それぞれの地域・団体へ派遣できないか。それぞれの組織・団体の持っている特性をエンパワメントして高め、他の団体へそのスキルを提供できないかということが出た。

関わる人がどういう人かということについては、既存の各団体の人材のレベルアップや、意識を高めてリーダーやコーディネーターをこの中で育てて、こういう事業に関わっていけないか、このあたりは話が行ったり来たりいろいろ出たが、団体によって具体的な事業というのは変わってくるので、具体的なことはあまり出なかった。



センターに最初どのようなものが必要かということで出して、皆の意見をそれぞれ入れたのが図だ。このセンター自体は会員制でもいいので、鍵の管理を皆ができないか、それによって夜、開けることができないか。鍵の管理をセンターを使う人たちが自主的にできないか。専従職員は3名くらいいいればい。また、パソコン、印刷機、電話、ファックス、ロッカー、ラック、これは情報を入れたり関係書籍を入れる書棚、ここを利用する団体ボックスのようなものあればいい。ここに来たら団体宛の情報が入っていたり、いろいろなものを置いていけたり、団体が使えるボックス、また机は会社の事務机というイメージで

はなく、大きな、何でも対応できる机のようなものを置いて、ここで職員が作業をしたり、ボランティアが自分たちのチラシを作ることがあってもいいと思った。また、小さな単位で皆でお茶を飲んだり、話をしたりするスペース。また、センターを使っている団体が会議をしてもいいし、他の地域の団体に貸すということも考慮に入れて会議室があったらよい。それから、掲示板。ポスターを貼ったり、ポストイットなどで、「あげます」「売ります」「買います」のような掲示板があればよい。またご意見箱もあればよい。ここは原則的に靴を脱いでもらって、裸足で中を気持ちよく歩けるような部屋ならばいいと思う。あとは冷蔵庫やポットがあればよいという話も出た。

グループ2

(事務局)

グループ2では、主にソフトの話をした。

ソフトの部分で何が望みかということで、1つは「出会いの場の提供」。いろいろな人が集まれる場所を作っていく中で、それぞれが情報交換、出したり取ったりをできる場所をまず作っていく。その中から、従来はボランティアであれば福祉といった限定されたものが、教育、環境、まちづくりなど様々な分野の人が、そこに行けば何か情報が得られるといった場所をまず作っていきたい。そうなってくると、おのずと場所的には北の方や南の方になってしまうとなかなか集まってきにくいので、やはりある程度、皆が集まれる場所がいいのではないかということが出た。「出会いの場」であり「情報交換の場」でありということで、まずそこからスタートしようということだ。

ハコの中身については、グループ1と似たようなものだと思うが、ファックス、パソコン、インターネット、パソコンプリンタ、簡易印刷機、情報が取れるような開架式の書棚、大きな作業机、連絡ボックス、湯茶の簡単なセット、電話、コピー機。また、会議室でもよいが、内容的に人に聞かれないことであれば相談室というものが必要かと。また、情報を掲示するためのコルクボード、例えば「サンタクロースがほしい」とか、行事で必要な部分だとか、そういった情報を交換するためのボード、同じくホワイトボード、皆で情報を出し合う部分での場所であり、道具がいるのではという話が出た。

スタッフのことになるとなかなかで、三位一体ではないが、行政の者とNPOやボランティアの方、そしてある程度専門的にこういったことをやっているプロパーが必要だとなった。芦屋では、いきなり市内で活動している方が来られてもすぐにはなかなかできないので、当面は現在活動されている方に援助をお願いしながらやっていく。市内の情報は市民がよく分かっているのでいずれはそういう形になるとしても、当面は援助していただかなくてはならないかという話をした。

(補足)

まずスタッフの面だが、タテ割り行政の弊害をなくすようなセンターにしたい。今の発表に付け加えて言うと、第1は出会いの場とする、どういう人の出会いの場にするかというと、NPOと地縁団体と一般市民の出会いの場を作る。当初は年度初めと年度末でよいが、2年目くらいになってくると、メンバーの資質向上のための研修会という行事をそこで行うというような意見だ。

また各種団体の情報がセンターへ行けばいつでも得られるような場所にしたい。また、人の問題は一番大事で、2人なり3人の適切な人を得られるか得られないかによって、こ

の事業が前に行くかどうかどうなるかが決まってくると思われる。だから余程慎重に人選をしなければならない。また、偏らないように。行政関係者のOB、天下りという意味ではなく、行政の中にいてその情報をすぐに伝えていただける人、もう1人は関係団体の中、市民の中から出てもらう。またプロパーがいなければ前に進まない。

具体的にさらに進めていくとすれば、4つほどどうしても守らなければならない条件がある。1つめは法的規制、消防法など、2つめは予算、3つめは人の問題、4つめが時間、プログラム。こういったことがこの事業のソフトの面でのポイントになる。

グループ3

グループ3は市民とNPOに関係するメンバーが多かったが、まず夢をでっかく持とうということで、大きな夢を出した。部屋をどのくらいのスペースがいいかということで、遠慮してこのくらい（第2会議室）のスペースはほしい。できれば真ん中でパーティションで仕切って、一緒になったり分かれたりできるような。どうも国体事務所として使っている事務所をもらおうかという話が出た。

できれば中くらいの会議室、小さい会議室、そして大会議室のようなものがあればなお理想だし、いずれはパソコン等を使って情報管理をするので、私の経験から言って、すべて無線LANが引けて、ノートパソコンがあつてそこからプリンタ、スキャナ、ファックスすべてができるような設備があつたら言うことはないが、金の話になってきて言いすぎだということでだんだん縮小してきて、とりあえず夢としてはそのような形で。テーブルも引き出しがあるのではなく、いつでも自由に組み合わせができるオープンスペースで、キャビネットも移動式、また掲示板やチラシが置いてNPO情報や地縁団体情報がそこへ行けばいつでも手に入るようなもの。

そのようなものを考えていくとだんだん広くなってきたので、第1ステップ、第2ステップ、第3ステップがあつて、今の話は多分第3ステップの話だと思うので、とりあえずこのくらい（第2会議室）か、せめて隣の部屋くらいのスペースでスタートしたい。

やはり人材をきちんとしないといけないということで、先ほど副委員長が言われたのでそこに集約できる。行政の人との関係では、顔が見える関係が却って問題になるので、ニュートラルな人がほしい。ニュートラルな人でしかも、つなぎ役としての市民参画課ときちんとコミュニケーションができる人格者が必要だ。最初からこの会議では、行政の人が窓口でやるというのはあまり話がなかったようなので、むしろ我々のこの仲間から、活躍していただいている参画課ときちんとできる人で、やはり民の人から選ばれたほうがよいのではないかという話になった。

そうは言うもののやはり人を育てなければならないので、2番の事業のなかに中核としてある人材育成がやはり急務だろう。この第1ステップ、第2ステップの1年3ヶ月でいかに人材を育てるかということが多分1番大きな問題で、第3ステップのときにはその育った人材が、副委員長が言われたような3つの視点でできて、4つをカバーできるような人を育てて行こうと。

人材育成には時間がかかるので、とりあえず第1ステップ、第2ステップは市民の窓口としての相談事業が絶対に必要だろう。そして先ほど言った材育成業務。それとこの場所に来たら地縁団体とNPOの情報がすぐにわかるようなシステムというか情報閲覧ができて、それに回答ができるような交流の場にしていきたいので、地縁団体とNPOの交流事業などをしていけばどうかという話が出た。

今後、ハコ、事業、人というのはステップごとに変っていくだろうが、取り急ぎこの1～3月に誰がどのようにやったかということをしちんとしていくためには、やはり人材育成で、年金で生活ができてお金もそんなにかからない人が来てくれたら一番いいのだろうが、あまり行政マンがやるのはどうかという話がグループ3で出ていたので、その辺りの人の問題というのは非常に重要なポイントだと思っている。

また、情報について私から提案したのは、ホームページやブログで常に相談事業が公開できればいい。自分もそれを相談したかったということが、ホームページにアクセスできる人ならば簡単に情報が公開できるので、できれば3名くらいの常勤スタッフの中にホームページ、ブログ、メール、ウイルスチェック等のセキュリティ、無線LAN等の問題があったときに修理ができるメンテナンスができるような人も1人いたほうがいいのではないかと思った。そういうことで、段階別にこの事業は進めていく必要があるので、とり急ぎ小さいものから今のような夢のものに育てていきたい。

(委員長)

あと5分くらいしかないが、3つのグループで確認したいことなどはないか。情報や認識の共有など、よろしいか。

(事務局)

この仕事を達成するためには、例えばセンターを使う皆さんが、これだけは使うという1番のキーポイントはどこに置いているのか。やる立場としてはそれを守っていきたい。強弱をつけなければいけないとか、何かを選択しなければいけないときに、こういう魅力があれば絶対に行くという、皆さんの本音を聞きたい。例えば、センターがボロボロの所でも使いやすければ行くとか、すごくきれいで見た目、魅力があるが行く気にならないとかをよく聞く。芦屋としてのポイントかも知れないが、何があれば使うし、育てていくし、支えるし、それは何なのか。

(委員)

行って話をして、自分がよかった、解決できた、いいこと聞かせてもらったということが最低ほしい。でなければ行く気にならない。

(事務局)

最後まで話を聞くということか。

(委員)

聞いてもらうだけではいけない。解決してくれなければ。

(委員)

ある程度の情報がそこに行けば得ることができる。あちこち集めなくてもそこに行けば集められるということになれば足を運ぶ。行って何もなければ2度と行かないと思う。

(事務局)

満足できる情報を得られるということか。

(委員)

自分のほしい情報が手に入れば、だんだんそこに足を運ぶようになる。

(事務局)

やはり情報か。

(委員)

最初活動するときに、せいの、でやるよりも、情報から行かなければ。一気に全部はできないと思う。

(委員)

うちでは、会議室を借りられるというのが魅力になっている。大阪ボランティア協会は不便なところにあるのにたくさんの人が使用するというのは、使用料が安いということと夜間と土日が開いているということだ。土曜の夜や日曜の夜が使えるということとたくさんの人が利用する。それだけで人が来ていた。安く、夜も土日も借りられる会議室があるというのはすぐに口コミで広がるので、それがあればいいと思う。

(副委員長)

担当者として事務局の立場で今のように意見を聞くのは大事なことだと思うが、それでいいと思う。あとの詳しいことは精通した2名の委員に具体的に聞いて、先に進めますと。やったことのない人にはわからない。最後は委員長の了解をとっていくので、それでよしいかといったほうが実質的だ。

(事務局)

というのは、市民参画センターの検討は今回はこれで終わり、あとは予算などに移らせていただきたい。というのは条例の素案などを出していく必要があるので、今後はその検討を。

(副委員長)

事務局のこれまでの仕事に答える我々委員としては、一旦できたら、狭くてしょうがないというくらいに人が出入りするようには持っていくことだ。そうでなければ、予算をつけて事業を行って、どうなっているのかと言われる。それではいけない。

(事務局)

団体ボックスが「撒き餌」というか、これがあると人が来るかと思う。

(委員)

印刷機があると必ず来る。チラシをみんな作るの。

(副委員長)

それとやはり人だ。魅力のある人を置かなければいけない。

(委員)

つっけんどんな人でなく、市民の立場で愛想のいい人でなければ。

(委員長)

作業テーブルなどは、寄贈で高級テーブルが来てしまうのではないか。

(委員)

高級なものより手作りで、ボランティア団体に作ってもらうことが大事で、自分たちの作品がこのセンターにあるということで。

(事務局)

最初からすべて用意するのではなく、リサイクルで持ってきてもらうとか。どんどん集めていって、自分たちのものに作り上げていって、助走期間を経て完全民営化にしていく。

(副委員長)

それに関連してお願いしたいのは、やはり魅力ある人を入れたいと思ったら、待遇をよくしなければならない。やはりそれが決め手になる。

(事務局)

センターのスタッフを公募するというのはどうか。皆さんで選んでいただくとか。

(副委員長)

賛成できない。公募というと透明性があって公平のように思うが、どんな人が応募してくるかわからない。公募した以上、ましな人が来なくてもとらなければならない。それは危ない。委員を公募にするのはいいが、職員を公募するのはいけない。

(事務局)

センターの規模については、今年の2月か3月の検討会議の中で、たとえ小さくてもいいから欲しいということだった。

(副委員長)

小さいところでもいいということで、とにかくできるところからやろうということで、市でそれに応えていただいた。先ほど委員の説明を聞きながら、大きい夢を描くということで私たちとジェネレーションの差を感じた。私たちはできることからやるということで小さくてよいと思っている。奥池とちがうのだから広大な場所ではなく、便利のいいところということなので。やはり感謝して進まなければいけない。

(委員)

この先、まだ考える機会はあると思う。まず発足して、また皆でこれでは狭いということになれば考えればよい。

(事務局)

そんなに広い場所は確保できない。

(副委員長)

その実績は我々が作らなければならない。行政でものを言おうと思ったら実績を積み重ねていかなければならない。

(委員長)

それではこれで閉会とする。

(次回：8月9日(水) 15:00～17:00 分庁舎2階 大会議室)

(閉会)